

ビハール兵庫通信 SHOUJA vol.7

精

わたしを
かえす
ところ

舎

विहार

ビハーラ活動とSDGs

北 摂 組



持続可能なものにしていかなければなりません。

「誰一人取り残さない」というSDGsの17の目標（貧困をなくそう、飢餓をゼロに、すべての人に健康と福祉を、ジェンダー平等を実現しよう、人や国の不平等をなくそう等）は、如来さまのご本願「摂取不捨」のみ教え、すべての者をおさめ取って見捨てないというみ心に共通しているといえます。

北摂組は15年前から神戸市北区の特別養護老人ホーム「ふじのさと」においてビハーラ活動を始めました。当初は夏祭りにたこ焼きを焼く活動に留まっていたのですが、その後、第3水曜日の午後2時から4時まで4人（5人（住職、寺族、仏婦）の定例の傾聴ボランティアへと形を変えました。その中で参加者は様々な貴重なこと学びました。例えば、入所者への対応の仕方、施設内の雰囲気、遵守す

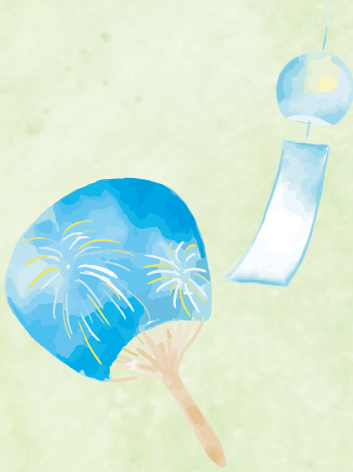
べきこと、顔を見て会話をする
こと、個人情報を守ること、優しく接すること、無理な聞き方をしないことなどです。童謡と一緒に歌うなどして試行錯誤を重ねてきました。

さて最近、国連がSDGs（持続可能な開発目標）、2030年までに環境、社会、経済が調和した世界を創るための行動目標を掲げました。コロナ後の世界を元どおりにするのではなく、「より良い回復」を求め、

「ビハーラ活動」とは、仏教、医療、福祉のチームワークによつて、人々を孤独の中に置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動で

す。「生、老、病、死」の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアであり、願われた命の尊さに気づかされた人々が集う共同体を意味します（ビハーラ活動の理念から）。

立場の違いや異なるものを認め、別の境遇で生きている人々がいることに配慮し、互いに理解し合うことが多様な世界を構築することであると考えます。



これまでのビハーラ活動を通して

前田正英

私がビハーラ活動に参加しようと思ったのは、平成10年頃

だったと思います。門徒推進員だった私が神戸別院で開催されたビハーラ公開講座に誘われ、

『大橋先生』のお話をお聞きしました。先生の患者さんと家族の方の間に立って活動（ケア）をされている話を聞いて、「患者さんから家族の方に『ありがとう』の一言を言えそうではない時に、タイミングよく声掛けしてスムーズなやりわらいだこ

ミュニケーションを…」というところに感動しました。

私は昭和58年から8年間、リンパ腫で入院を繰り返していた父親を母とともに看病してきましたが、励ます事はできても病名や余命宣告を告げる事はできませんでした。主治医の先生からも「この方は、気力で生きている」と聞かされて、なおさら本当の事は言えませんでした。頑ななままコミュニケーションをできずにいた事が心残



りでした。

本山のビハーラ研修会（足掛け3年）を受けましたが、実際の活動は毎月数回の施設訪問です。ターミナルケア（傾聴と一緒に歌うこと）は、これでもいいのかと思いつながらの活動です。でも、続けていることから解ってくることもありました。

今、私は母の在宅看護に専念しています。母も脳梗塞で長年にわたり入退院を繰り返していました。2～3年前に血液検査でカリウム値が高く入院しました。食事ができるようになって、主治医の先生から「このまま入院されますか？もし食べられない時は胃瘻になります」と告げ

られました。決心をして、それから1か月後に在宅看護がはじまりました。エンシユア（医療用の食材）補給で食事を続けています。身体は疲れますが、家族で寄り添い快適な在宅看護である事に感謝します。もちろん介護支援をうけながらですが、ビハーラ活動で学ばせていただき、どんな時も自然な対応が出来ている事に喜びを感じます。



ビハーラ兵庫の主な活動

- ・高齢者施設でのボランティア
- ・邑久光明園、長島愛生園での交流会
- ・緩和医療や福祉分野の研修会の開催 など

ビハーラ兵庫賛助会員

賛助会員とは、ビハーラ活動に興味があり、『私も何かできることはないだろうか』とおもわれる方に必見の制度です。賛助会員になりますと研修会等の活動のお知らせが届きます。まずは知るところから始めましょう。賛助会員に加入いただくだけでも、団体にとって大きな助けになります。

会 費

会員5千円・賛助会員3千円／年

研修会等のご案内を送付します。
ボランティア中の怪我などを補償する
県ボランティア保険に登録します。